史談会行事で郷土を再発見

長崎史談会会員　草場　里見(63)

先日久しぶりに長崎史談会の行事に参加して、いろいろなことを学んだ。興福寺主催の茶市では、同会の原田博二会長から日本に煎茶を広めた隠元禅師のお話を興味深く聞いた。

その講演の終了後は会員たちで中島川沿いの中華料理店慶華園(5月25日を最後に閉店)で、昼食会を開いた。私より年齢が一回り以上上の方たちからいろいろな話を聞けたのは有意義だった。

それから約1週間後は新地と銅座の史跡巡りに参加した。かつて周りを海で囲まれていた新地の護岸の一部だった石垣が、ホテルJALシティ長崎内に今も大切に保存されているのを見てうれしくなった。

また、シーボルトの妻楠本たきや、娘イネが住んでいた家が、現在銅座入り口にあるおにぎり専門店「かにや」付近にあったといわれていることを知った。

同会では、晧台寺などにある歴史的に重要な墓地や墓碑の清掃活動を行っている。私はこれまで参加したことはなかったが、今後参加したいと思っている。実はこの活動にだけは参加したくなかったのだが、先日の昼食会である人から10回は参加すべきと言われ、酒の勢いも手伝って「はい、やります」と言ってしまった。これもご縁と思い、今では張り切っている。

(長崎市)